

第1回 清瀬駅周辺の未来構想ビジョン策定に向けたまちづくり協議会

議事要旨

開催日 : 令和7年4月22日(火) 午後7時～午後9時
開催場所 : 清瀬市生涯学習センター講座室1
出席者 : 別添出欠簿のとおり

1. 開会の挨拶

○市長より挨拶

- ・市長よりあいさつをお願いします。【事務局】
- ・平成7年に北口を再開発したが、北口については施設、設備が老朽化している。南口も50年以上経過していて、昔から変わらず交通動線が錯綜し、エスカレーターがない。西武池袋線で駅舎改修をしていないのは清瀬駅のみであり、北口・南口のリニューアルと、駅舎改修をセットで考える必要がある。今後の清瀬駅のあり方について、忌憚のない議論をしてほしい。今日はキックオフである。市民からの意見をいただき、清瀬の未来について語り合いたい。よろしくお願いします。【澁谷市長】

2. 資料確認並びに協議会の目的・背景・検討スケジュールの説明

○事務局より資料の確認

○事務局より協議会の目的・背景・検討スケジュールの説明

3. 出席者の紹介

○各委員より自己紹介

- ・清富士会会長の小池委員、清瀬市医師会会長の佐々木委員は欠席である。【事務局】

4. 会長・副会長の選任

- ・推薦、立候補という形は問題ないか。【事務局】
- ・異議なし。【全員】
- ・会長を推薦したい。意見はあるか。【事務局】
- ・難しい話と思うが、学識経験者である松本委員を推薦させていただきたい。【委員】
- ・意見はあるか。【事務局】
- ・異議なし。【全員】
- ・副会長を立てたいが問題ないか。【事務局】
- ・異議なし。【全員】
- ・会長より推薦をしてほしい。【事務局】
- ・細山委員を副会長に推薦したい。【会長】
- ・異議なし。【全員】
- ・会長、副会長より挨拶をお願いします。【事務局】
- ・都市計画マスタープランを策定する手伝いをした経験がある。当時は中澤氏が担当だったと記憶している。駅の問題について、その際にも課題を感じていた。今回、忌憚のないご意見をいただきながら、よいものをつくっていききたい。【会長】
- ・30年前に少し携わった経験がある。いい年を迎えた北口、50年経っても何もしていない南口とあるが、南口の住民として、南口はどうなっていくのか、皆さんと考えていきたい。【副会長】

5. 協議会の公開について

- ・発言者の名前を伏せた状態の会議録を市ホームページに公開する予定であり、以下の2点についてご了承いただきたい。①市の公式ホームページに委員の名簿の公開と発言者を伏せる形で委員の発言をまとめた会議録を公開する、②協議会での傍聴を認める。【事務局】
- ・異議なし。【全員】

6. 清瀬駅周辺のまちづくりに向けたこれまでの検討

- ・資料の説明。【事務局】

7. 清瀬駅周辺の課題と強みの分析（再検討）

- ・資料の説明。【事務局】

8. 意見交換

- ・質問があればいただきたい。【会長】
- ・確認だが、定性的なことは書いてある通りだと思う。一方で、定性的なことをより深く理解しようとしたときに、定量的なことが気になる。例えば人口については人口増加なのか、人口密度を維持したいのか、人口ピラミッドのリバランスなのか等を検討したかを伺いたい。【委員】
- ・駅周辺に特化した人口の検討はしていないが、市全体で人口減少は始まっているため、定住人口を増やしていきたい。ただ日本全国で人口が減り、どの自治体も魅力的なまちづくりをしている中で、清瀬市としては関係人口、交流人口を取り込むことを考えている。【事務局】
- ・定住人口よりも交流人口・関係人口に重きをおいているということで間違いはないか。【委員】
- ・清瀬駅を訪れてもらい、知ってもらうことで定住を促進したいと考えている。【事務局】
- ・未来構想ビジョンの年次はいつか。将来的に達成したいことと、今すぐ解決したいことを明確にしないと、未来を語るだけで終わってしまう可能性がある。【委員】
- ・ビジョンはあくまで理念的なもの、理想的なものを取りまとめる予定である。次の段階では具体的な計画や整備手法を検討し、30年後や10年後のビジョンを考えていきたいと考えている。【事務局】
- ・具体的にどうあるべきかという議論はここではしない認識である。ただし、ここでの議論は残っていくものであるから、30年後を語りながら次の実現性を考えていきたい。【会長】
- ・北口は、30年前は約30店舗あったものが現在は約8店舗に減少し、店主も高齢化している。店舗数が増える見込みはなく、非常に厳しい状況と認識している。いつ振興組合がなくなるかわからない状況である。また、配布資料はよいものを作成していると思うが、財政難の清瀬市ではこれらすべて取り組むことは困難だと認識している。【委員】
- ・だからこそ、どのように進めていくことが望ましいのかについて意見を交換したい。【会長】
- ・農業や医療系に頼りすぎている印象がある。既存のものに頼るだけでなく、特に女性の意見を取り入れつつ潜在的な人材を発掘することが重要ではないか。また、線路で分断されているところに大きな歩道橋をつくることも必要ではないか。人口増やすのか、来街者を増やすのか、大きなテーマを示してもらったほうが我々もやりやすい。【委員】
- ・商店街の担い手が減少しているなかで、清瀬市はSDGsを推進する政策を進めていると思うが、ビジョンとSDGsとのかかわりについて教えてほしい。【委員】
- ・清瀬市はSDGs未来都市に選定されたが、それに沿った考え方で駅周辺も取り組む必要がある。当然この計画にも反映されると考えている。【事務局】
- ・選定された自治体は限られているため、市政の取り組みと駅周辺の取り組みがリンクしていかなければならないと思う。【委員】
- ・未来について語るためには、その時点での状況を考慮することが不可欠だと思う。商店の数についても、単に減少を受け入れるのではなく、新しい人材を迎え入れて維持するのかを検討しなければならない。市としても、商店を支援するための補助を行うなどの取り組

みを進める必要がある。【委員】

- ・ どのような生活をするのかということも考えなければならない。駅前で買い物をしてもらうにはどうすればよいかも考えなければならない。【会長】
- ・ バスの運転士は清瀬駅南口へ進入してくるのが大変だと思う。それを何とかできないかと考えている。また、様々な影響でまちが汚れてきているため、市の介入で対策を講じなければ、個人商店の状況は変わらないと思う。【委員】
- ・ 都市計画マスタープランを策定したときに思ったが、南口周辺は道がよくない。安心して移動できる方法を考えなければならない。駅に人が来てもらうのであれば、車や交通に対し何かしらの対策が必要である。【会長】
- ・ 南口は良さもあるが、特に小さな子を連れていくときに危険を感じる。資料6にあるようなウォーカブルなまちづくりのイメージは実現させたい。南口は高齢者が多く、未来を見据えた計画が不足している。若い人々を迎え入れ、子育てを支援するためにはアップデートが必要である。若い女性の意見を取り入れたほうが良いと思う。新しい人が来てくれる選ばれるまちになればよい。子育てに優しいまちは高齢者にも優しい街だと思う。【委員】
- ・ 北口再開発に携わった経験があるが、現在魅力的であるかということ、店舗数も減少しているし、菓屋が多い印象である。南口についても家賃を払って商売するとなると、持続しないと思う。ケヤキを植えたところに桜を植えていたら、人がもっと集まってきたのという気持ちもある。花の魅力は人を集める。魅力的なまちにしていけるためには、今度こそは若い人の意見を取り入れていただきたい。また、デッキが今度どうなるかを心配している。【委員】
- ・ デッキについてはどうなるかは分かっておらず、皆さんの意見を聞いてからである。【会長】
- ・ 清瀬駅は南口・北口ともにバスエリア的には需要が高い。ただし南口の運行に難があり、安全性も十分ではないため、対応に苦慮している。南口は久米川や武蔵小金井をつなぐ駅間需要が多い。しかし、今の南口はロータリーで一周できず、自前で待機場を用意している状況である。また、今の乗降島はバリアフリーの問題もあり、車いすの人を乗せるにも難儀である。さらに、乗降島からお客さんが溢れており、お客さん、バス運転士も双方でひやひやしている。また、小金井街道には踏切があり、定時制担保が難しい。まちづくりによってロータリーがきれいになることを歓迎したい。我々は道路を使わせてもらっている立場なので、自治体と協力しながらウィンウィンな結果にしたい。また、バス会社単体では需要を創出できないので、まちづくりを通じて外出機会の創出をしてもらえればと期待している。【委員】
- ・ 清瀬駅は西武沿線のなかで 13 番目（92 駅中）、一日約 6 万人の乗降客数と比較的利用者が多い駅である。まちの玄関口である駅については、まちと一体となって安全性や利便性をあげることが重要と考えられるので、駅の在り方は広場の在り方などとセットで考えていくことが望ましいと思う。ハード面の整備は大事だが、まちの個性、コミュニティをつくることも並行して考えていくことが最終的にはいいまちづくりに繋がるのではないと思う。【オブザーバー】
- ・ 大通りからロータリーに接続する道については、適切な道幅を確保することや一方通行化などの交通面での変化を考慮する必要がある。また、地域の魅力が向上すると車で訪れる人が増え、渋滞が発生する可能性があるため、検討する必要がある。さらに、歩行者と車両の分離も併せて検討することが重要である【オブザーバー】
- ・ 清瀬のタクシー運転者は 10 年前から 3 分の 2 へ減少した。新人の運転者は南口を運転することに抵抗がある。南口は教育機関・医療機関があり需要は非常に高く、タクシーの数も増やしていきたい。無線配車を効率的に行うなど、併用する考え方も取り入れるとよいと思う。また、ライドシェアに関しては多摩地域ではやる人がいないという現状である。【委員】
- ・ 仕事が終わった後に買い物したいが、清瀬で買い物できる場所がないと感じている。通勤時での買い物はできない。規模の大きいスーパーを求め、週末の買い物は車で市外（新座・ひばりヶ丘）へ行っている。一般市民として、市内でお金を落とせていない。天気が良い日に車ではなく自転車で行ける場所が欲しい。交通と生活を支えてくれる場所がなく、不便に感じている。また、横断歩道のないところ（乗降島）を通っている通行者が見られ

危険と感じている。北口の住民は南口へ行かず、南口の住民は北口へ行かず、分断されている印象であり、駅周辺を一体化して、休みの日に買い物ができる場所になればと思う。

【委員】

- ・在宅ワークをしており、平日にランチを清瀬駅周辺で食べたいが適当な場所が見つからない。北口は土地が広く住みやすく、学生も多いなど、素材はあるのにアピールが足りていないと感じている。関係人口を増やすことに対しては、関係人口の増加・維持がまちの活性化・定着人口の増加・出生率の増加に繋がると考えているため賛成している。北口の市民が南口に行かないことに関しては、子供を育てているが、子連れで線路を渡るのも、駅のエレベーターを使うのも大変であり、駅の反対側に行くという選択肢は必要最低限にしたいという考えを持っている。医療のまちとして清瀬らしさを出すとあったが、はたして結核や癌治療という特殊な医療をアピールできるだろうかと思う。また、ママ友の間よく話がでるが、子供が通える病院が少ない。【委員】
- ・人が一番集まる場所なので、人中心の空間づくりを考えたほうがよい。現状交通中心と思う。交通広場につなぐネットワークや歩道が貧弱である。重要なのが、ウォーカブルなまちづくりだと思っていて、歩いて楽しい、歩きたくなる、人目線で見た時の豊かなまちが重要だと考えている。北口の歩道は「けやき通り」を除き貧弱。南口の商店街は魅力に感じる。そう考えたときに本当に今の交通体系でよいのかと疑問に感じており、道路を止めるといった大胆な発想も含め、道路ネットワークを考える必要があると思う。【委員】
- ・観光協会としても交流人口を増やし、賑わいをつくりたい。今の意見を聞くと南口のほうが問題を多く抱えていると思う。一度に全部はできないので、エリアに分けて考える（駅周辺に固執せず）ことが良いかと思う。南口を面的に全部変えるとなると莫大な費用が掛かると思うので、立体的なことも考えられると思う。また、交流人口を増やすという観点から清瀬にお店を出したいと思えるような工夫も必要である。現状の清瀬は魅力不足のために若者の事業者が集まらない。清瀬で仕事をしたい、事業をやりたいという若者を増やしていきたい。【委員】
- ・資料は勉強になったが、他都市の成功例を知りたい。北口で直売所をやっているが、新座市民、東久留米市民も来る。南口に住んでいる市民は来ない印象である。やはり、線路の横断をしないため、駅を超えられない。再開発が行われるのであれば、子育て世代や高齢者に優しく、南北が移動しやすい空間があれば考える。清瀬に人を集める前に、清瀬内での南北の流動が盛んになってほしい。【委員】
- ・北口と南口を移動するが、不便を感じている。また、北口は利便性がそこそこ高いが、魅力的な店舗が減っていることが寂しい。【委員】
- ・実は南口のごちゃごちゃした感じは魅力なのかもしれない。南口も再開発をしてしまうと、北口のようにになってしまう。魅力に感じるものは残しながらまちをつくることもよいかもしれない。【会長】
- ・商店会活動をやっているが、空き店舗のことなどを考えながらやっている状況である。この場で意見を言わないと何も変わらないと考えており、楽しいビジョンをつくっていききたい。【副会長】
- ・南側の道路が大きな課題であることを痛感した。どれだけビジョンに近づけるための整備ができるかが重要だと感じた。【委員】
- ・課題は十分に認識されているので、これを踏まえどのようなビジョンを描けるかが重要だと思う。【委員】

9. その他

- ・次回は6月中に開催する予定である。個別に調整させてほしい。【事務局】

以上